

3 2 . 食用野生きのこの人工栽培試験

(2) 原木栽培試験

鳥海晴夫

〔目的〕

1976年から4ケ年にわたって都内の野生きのこの分布状態を調べたところ、食用野生きのこのが約150種確認された。これらのうち、腐朽力が強く原木栽培に適した腐生菌を選抜して、味覚及び香りがよく市場性が期待されるきのこの人工栽培技術を確立する。

〔方法〕

ムキタケ、チャナメツムタケ、マツオウジ、スギヒラタケは1991年5月に接種し、枕木にほだ木をのせたカワラ伏せで管理しているほだ木の発生量調査を行った。

ヌメリスギタケ、ヌメリスギタケモドキは1992年4月にコナラ原木に接種し、上記と同様の管理をしているほだ木の発生量調査を行った。1990年にサクラ、エゴノキ、シデに接種したほだ木は雑菌の被害が甚だしく、発生量も少ないことから廃棄した。

間伐材を利用した野生きのこの栽培試験は、いままで原木栽培試験で発生量の多かったヌメリスギタケ、ヌメリスギタケモドキ、ムキタケを3月下旬に伐採したスギの間伐材にそれぞれ15本ずつ1993年4月に接種した。接種及び管理は前報同様の方法で行った。ほだ付率は各試験区ごとに5本ずつ抽出し、12月上旬剥皮して調査した。

〔結果〕

1. ムキタケの原木栽培試験

発生期間及びほだ付率の調査結果を表-1、図-1に示す。ムキタケの発生期間は、10月中旬から11月中旬であり、天然のムキタケとほぼ発生期間が同じであった。ほだ付率は、奥多摩-2、3、丹波山-1の3系統でサクラが良好であったが、奥多摩-1だけはコナラがよかった。天然のムキタケはコナラに発生することはあまりないが、表-5、6に示すヌメリスギタケなどに比べてかなりほだ付率が高く、前報で報告した樹種別菌糸伸長試験のとおり樹種に対する適性が広いと考えられた。

3ケ年の樹種別発生量を図-2、3に示す。樹種では、接種年はサクラだけに発生がみられたが、2年目からはサクラ、コナラともに発生し、発生量もほとんど差はなかった。ムキタケの系統では、丹波山-1の発生がよかったが、奥多摩-3は極端に発生不良であった。奥多摩-3はカサの色も黒っぽく、市場性も薄いと思われた。

2. チャナメツムタケ、マツオウジ、スギヒラタケの原木栽培試験

ほだ付率及び発生量の調査結果を表-2～4に示す。いずれの種類もほだ付率が低く、3ヶ年の間子実体の発生がなかった。ほだ木には雑菌が多く、今後も発生は望めない。

3. ヌメリスギタケ、ヌメリスギタケモドキの原木栽培試験

サクラ、エゴノキ、シデに接種した試験結果は前報のとおりであるが、コナラに接種した試験結果を表-5、6に示す。ほだ付率が低く、2ケ年の発生量も少なかったことから今後も期待は薄いと思われる。

4. 間伐材を利用した野生きのこの栽培試験

試験区を表-7に示す。いままで試験した中で発生のよかった種類を接種したが、菌糸はほだ木表面の一部に伸長しただけであった。今後発生量調査を継続していく。

表-1 ムキタケの試験区及び子実体発生発生期間

系統	原木	平均直径 cm	材積 m ³	原木重量 kg	接種 1991年 月-日	子実体発生期間		
						1991年 月-日	1992年 月-日	1993年 月-日
奥多摩-1	サクラ	11.6	0.1235	85.9	5/6	11/19	10/19~11/9	10/14~11/5
	コナラ	8.2	0.0610	45.2	5/6		10/19~11/9	10/18~11/16
奥多摩-2	サクラ	9.9	0.0909	64.4	5/6	12/2	10/13~11/2	10/14~11/16
	コナラ	9.5	0.0842	60.9	5/6		10/15~11/2	10/22~11/2
奥多摩-3	サクラ	9.8	0.0867	60.9	5/6	11/14~12/2	11/2~11/9	11/5~11/16
	コナラ	9.4	0.0818	60.5	5/6		11/9	11/16
丹波山-1	サクラ	10.6	0.1037	68.8	5/6	11/14~12/2	10/13~11/9	10/14~11/16
	コナラ	9.9	0.0879	67.5	5/6		10/13~11/9	10/18~11/16

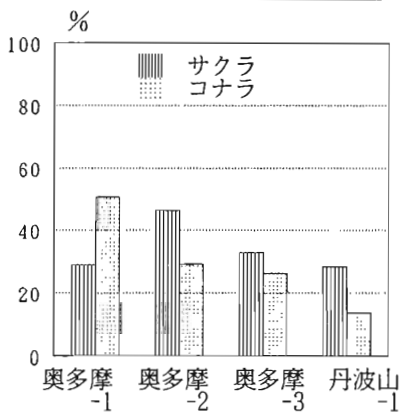


図-1 ムキタケのほだ付率 (表面×横断面)

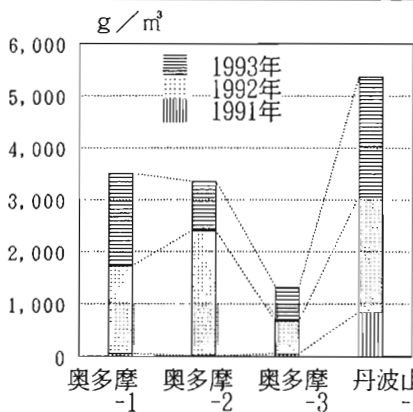


図-2 サクラ原木を利用したムキタケの子実体発生量

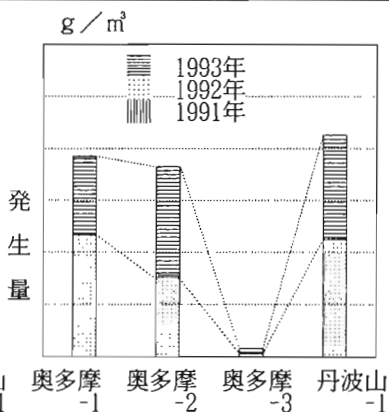


図-3 コナラ原木を利用したムキタケの子実体発生量

表-2 チャナメツムタケの発生量 (g/m³)

系統	樹種	ほだ付率 %	1991年	1992年	1993年
			g	g	g
奥多摩-1	コナラ	2.9	0	0	0
	サクラ	9.3	0	0	0

※ほだ付率は表面×横断面

表-4 スギヒラタケの発生量 (g/m³)

系統	樹種	ほだ付率 %	1991年	1992年	1993年
			g	g	g
青梅-1	スギ	0.0	0	0	0

※ ほだ付率は表面×横断面

表-5 ヌメリスギタケの発生量 (g/m³)

系統	樹種	ほだ付率 %	1992年	1993年
			g	g
丹波山-1	コナラ	4.9	87	0
F300		3.9	0	0

※ ほだ付率は表面×横断面

表-7 間伐材を利用した野生きのこの栽培試験区

供試菌	系統	原木	平均直径 cm	原木材積 m ³	原木重量 kg	接種 1993年 月-日	ほだ付率 (1993.10.調査)	
							表面 %	横断面 %
ヌメリスギタケ	丹波山-1 F300	スギ 間伐材	8.7/ 6.4~11.0	0.0727	49.1	4/22	19.3	0
			8.4/ 6.9~10.1	0.0641	46.8		7.9	0
ヌメリスギタケ モドキ	五日市-1 檜原-1	伐採 1993.	8.1/ 6.5~10.5	0.0662	51.7	4/22	3.7	0
			9.6/ 8.0~11.8	0.0882	56.7		12.9	0
ムキタケ	奥多摩-1 丹波山-1	3.7	9.4/ 7.3~11.0	0.0831	64.3		3.3	0
			8.8/ 6.2~12.1	0.0758	53.3		4.5	0

表-3 マツオウジの発生量 (g/m³)

試験区	樹種	ほだ付率 %	1991年	1992年	1993年
			g	g	g
2倍区	アカマツ	0	0	0	0
4倍区		0.5	0	0	0
6倍区		3.8	0	0	0

※ 試験区は直径のcm単位の数の倍数を接種
 ※ ほだ付率は表面×横断面
 ※ 系統は稲城-1

表-6 ヌメリスギタケモドキの発生量 (g/m³)

系統	樹種	ほだ付率 %	1992年	1993年
			g	g
五日市-1	コナラ	8.8	169	0
檜原-1		16.9	0	0

※ ほだ付率は表面×横断面